

子供とはメールより 電話や対面で 話をする習慣を

お子さんは、本を読みますか？
それともテレビ中心ですか？ ラジオ
が好きという子もいるかもしれませんが
せん。善し悪しがありますが、「考
えられる脳を創る」なら、本を読む
ことをお勧めします。その理由は、
情報量の多寡にあります。

本と映像、ラジオと映像の情報量
を比べた場合、いずれも映像のほうが
が多いのは説明するまでもないでし
ょう。では、本とラジオはどうでし
ょうか。活字と音声の違いだけで大
差ないと思うかもしれませんが、脳
にされる情報量は活字のほうが
少なくなります。活字だと誰のセリ
フかわからないことや、登場人物の
心情などを、行間から読み解かなけ
ればならないケースが多いからです。
一方、音声であればイントネーショ
ンの違いや「間」の使い分けて話者
の感情まで伝わります。つまり、情
報量が最も少ないのは、本「活字と
いうわけです。

そして、される情報が少ない
ほど脳は想像して補おうとします。
想像するための手掛かりを探そうと
集中するのです。このように能動的
に読もうとする意識が、深い思考を
促し、この繰り返しで脳を鍛え「考
えられる脳」を育みます。

そのため、ただ単に活字を目で追
うだけでは意味がありません。お子
さんが読書に慣れていないようなら、

UPSKIL
LING

厚い本より薄い本

テレビ英会話より、ラジオ英会話のほうがいい

アニメ映画より小説や漫画のほうがいい

電子書籍より紙の本

MENU

BRAIN



BRAIN SCIENCE

EFFICIENCY

CAPABILITY DEVELOPMENT

HAVE EFFECT

BRAIN SCIENCE
BRAIN RESEARCH
DEVELOPMENT OF ABILITY
UPSKILLING
ABILITY DEVELOPMENT
CAPABILITY
DEVELOPMENT
CAPACITY
DEVELOPMENT
SKILL DEVELOPMENT
MAKE DIFFERENCE
HAVE EFFECT
GROW IN EFFICIENCY

MAKE DIFFERENCE

DEV OF ABILITY

RCH

SKILL DEVELO

DEVELOPMEN

飽きさせないためにも、まずは薄い
本から始めましょう。同様に、英会
話を学ぶならテレビよりもラジオの
ほうが集中しますし、音声の入るア
ニメ映画よりも漫画のほうが、想像
力をめぐらせられます。

人間は、豊富な情報をあてにして
しまうので、映像があると、自分で
考えずにそちらに頼ろうとします。
結果、注意は散漫になります。「ど
ちらが脳を使うか」を比べるときは、
情報量の少ないほうを選びましょう。
次に、同じ活字メディアでも、電
子書籍・電子辞書と紙の本がありま
す。これはどちらでも情報量は同じ
だろうと思われるかもしれませんが、
実はそうではありません。特に、正
確な記憶が必要な教科書や学習参考
書などでは、記憶を助ける「手掛か
り」が重要なため、紙の書籍が適し
ているといえます。

電子辞書は、検索したいフレーズ
を打ち込むとすぐ答えが出ます。分
厚い辞書をめくるより便利ですが、
実は頭に入っていないなかったとい
うことが少なくありません。なぜそう
なるかというと、電子辞書が効率を求
めるがゆえに記憶の手掛かりとなる
情報をそぎ落としているためです。

紙の辞書では、開いたときの本の
厚みや目的のフレーズの周辺に書か
れている文字、自分で付けた印やア
ンダーライン、空白部分への書き込
みといった一つひとつが、記憶の手
掛かりになります。

小説も、本の厚みがストーリーの
進展具合を想像するときに役立ちま

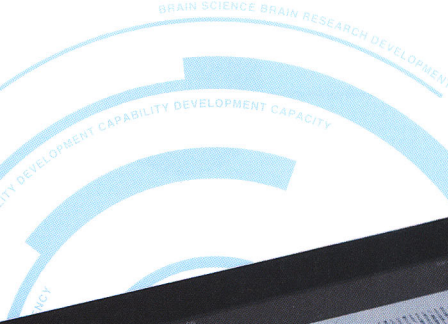
言語の脳科学研究者による9つのメニュー

す。「まだ3分の2ほどだから、もうひと波乱ありそうだ」などと、今後の展開などを想像できるわけですが、また、紙の本は行きつ戻りつしながらじっくり味わうのにも適しています。その分、物語の世界に深く入り込み、想像をめぐらすことができま

す。脳に情報を入力するときは、量を限定したほうが想像する力を鍛えられますが、出力するときは、情報量が多いほど脳は想像力を高めます。出力するとは、文章を書いたり、会話することです。文字だけでなくもイントネーションや間、表情やしぐさなど、より多くの情報を出力できる

ときのほうが、相手にうまく伝わっているか、相手がどう感じているかなどを想像しながら話すからです。相手に思いを伝え、相手の心を動かす方法や相手がどのように感じているかなどは、リアルなコミュニケーションで学ぶしかありません。伝わらないかもしれないと感じながらも必死で考え、精いっぱい伝えようとした結果、相手がどのような反応を示したか。この積み重ねこそが大切

です。ですから、子供とコミュニケーションをとるときは、できる限り対面で声や表情などを感じさせること。たまに、「子供とは頻繁にメールでやり取りしているから、どういう状況か把握している」という親御さんがいますが、子供は伝える力が未熟なため、メールのような短文のやり取りだけでは把握するのは非常に難しいと思います。



ADVICE

家族間で頻繁なメールは無意味

映画は映画館で大勢で見たほうがいい

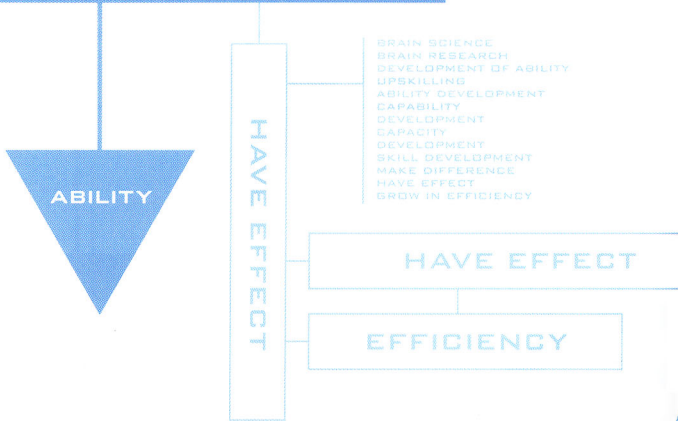
電子ピアノよりピアノ

たくさんの教材を与えても無意味

お経を子供にも聞かせる

UPSKILLING

BRAIN SCIENCE
BRAIN RESEARCH
DEVELOPMENT OF ABILITY
UPSKILLING
ABILITY DEVELOPMENT
CAPABILITY DEVELOPMENT
CAPACITY DEVELOPMENT
SKILL DEVELOPMENT
MAKE DIFFERENCE
HAVE EFFECT
GROW IN EFFICIENCY



子供の脳の共感力を高めるには、DVDより、ライブが最適です。映画館で映画を見たり、寄席で落語を聞いたり、音楽のコンサートに行くのです。周りの人たちがどのシーンで感動したり、笑ったり、驚いたりするか。その空気を共有して、自分の感覚との差を意識できるからです。家族とDVDを見ても同じと思われるかもしれませんが、DVDでは「何回でも見返せる」という安心感から、集中力が薄れる可能性があります。

脳を鍛えるには能動的に行動することが大切になります。例えば、ボタン一つでいろいろな楽器の音色を再現できる電子ピアノよりも、鍵盤をたたくときのタッチやペダリングを変えることでさまざまな音色を表現できるピアノのほうが良いのです。できあいのおもちゃや正解を書き込むだけの教材をたくさん与えるよりも、積み木や画用紙のように想像力次第でいろんなものをつくれるもののほうが頭を使います。

子供が理解していなければ聞かせても意味がないと思いがちな、お経や外国語も、繰り返し聞かせていけば暗記していきます。そこから意味を想像したり、言葉のリズムにふれたりしながら想像力を育むことができます。これは、赤ちゃんが周囲の話す言葉を聞いて覚えていくのと同じです。ですから、保護者の方は、与える情報をできるだけ自然にして、子供が考える機会をたくさん作ってあげてください。